高齢者の内面的性質に着目した活動への課題に関する研究

秋田大学　学生会員　○北澤　匠
秋田大学大学院　正 会 員　鈴木　雄
秋田大学大学院　正 会 員　日野　智

1. はじめに

高齢者は人との交流や会話の低下により、認知症や要介護状態、早期死亡のリスクが上がることに加え、抑うつ感、健康感、幸福感等に影響を及ぼすことが様々な研究によって明らかになっている。しかし、交流や会話の機会を確保するためには高齢者自身の意識や行動が重要と考えられる。本研究では、自分から行動できない性質や物事を諦める性質、頑固な性質など、高齢者特有の内面的性質に着目した。すなわち、これらの内面的性質の要因や内面的性質と各種活動参加意欲との関係について考察することを目的とした。本研究では、秋田県秋田市の高齢者を対象に意識調査を実施した。調査は秋田市の 3 地区の住民に対し、1,600（800 世帯）部を配布し、65 歳以上の高齢者から 141（110 世帯）部を回収している。

2. 高齢者の内面的性質の把握

本研究では、高齢者の内面的性質について明らかにするため、高齢者の活動や交流の阻害となる性質として 15 項目を設定した。**表-1** に、それらの項目に対して「あてはまる」「ややあてはまる」と回答された割合を示す。「これからの人生は楽しくならないと思う」が 65.9%と最も高い値となっている。

表-1　内面的性質の項目と該当率

	設問	該当率(%)
(1)	外出は必要最低限に済ませたい	39.9
(2)	人が多いところは避けたい	57.2
(3)	出かけるより家にいるほうが幸せ	37.7
(4)	人に頼るくらいならやらない	63.0
(5)	人に相談して意見をきかない	34.8
(6)	頑張ってもなんともならないと思う	28.3
(7)	やる気が満ち溢れていない	44.9
(8)	これからの人生は楽しくならないと思う	65.9
(9)	引っ込み思案になることがある	44.9
(10)	社交的でない	58.0
(11)	自分から交流や挨拶はしない	54.3
(12)	自分で判断する機会が少ない	26.1
(13)	周囲の意見に合わせない	29.7
(14)	自分で何とかしなければと思う	58.0
(15)	外出先で知り合いに会いたくない	30.4

以上の高齢者の内面的性質の因子の抽出のため、因子分析を行った。**表-2** にそれらの結果を示す。因子の単純構造化を行うため、プロマックス法による斜交回転を用いた。

表-2　内面的性質の因子

因子	設問	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	寄与率(%)
人と関わる意識の少なさ	(1)	0.74	-0.04	-0.03	0.09	-0.06	-0.01	7.16
	(2)	0.61	0.02	0.04	-0.01	0.05	0.09	
	(3)	0.60	-0.09	0.11	0.03	-0.02	0.00	
	(4)	0.51	0.03	0.08	-0.11	0.25	-0.09	
	(5)	0.49	0.27	-0.30	-0.01	0.06	0.05	
諦めの強さ	(6)	-0.13	0.80	0.09	0.01	0.02	-0.04	6.14
	(7)	-0.05	0.78	0.07	-0.03	-0.01	0.02	
	(8)	0.09	0.57	-0.06	-0.09	0.14	-0.06	
	(9)	0.24	0.34	0.01	0.02	-0.15	0.08	
自発的行動のなさ	(10)	0.14	0.05	0.74	0.00	0.05	0.00	6.11
	(11)	0.12	0.15	0.68	-0.01	0.09	-0.07	
	(12)	0.15	-0.11	0.40	-0.22	-0.12	0.05	
頑固さの強さ	(13)	0.01	0.06	0.01	1.02	-0.10	-0.01	13.38
自身で解決する意識の強さ	(14)	0.25	-0.12	-0.20	0.01	0.45	-0.05	6.87
人見知りの強さ	(15)	0.00	-0.02	-0.01	-0.02	0.05	1.01	4.23

因子分析の結果、固有値 1 以上の 6 因子が抽出された。因子 1 は「外出は必要最低限に済ませたい」「人が多いところは避けたい」「出かけるより家にいるほうが幸せ」などの因子負荷量が高く「人と関わる意識の少なさ」とした。同様に他の因子については「諦めの強さ」「自発的行動のなさ」「頑固さの強さ」「自身で解決する意識の強さ」「人見知りの強さ」と解釈した。

3. 高齢者の内面的性質と活動への参加

ここで、高齢者の活動参加希望に対する、内面的性質の影響について明らかとするため、共分散構造分析を行った。「活動への希望」は、全国各地の取り組みから抽出・選定し、10 項目を設定した。**表-4** に設定した活動への参加希望を示す。該当率は各活動に対し「したいと思う」と回答した高齢者の割合である。「外出するのが楽しみになる活動」への参加希望が最も高く 56.1%となっている。それらの 10 項目の平均点を標準化した。また、各観測変数については 4: あてはまるから、1: あてはまらないの 4 段階で与えている。各変数間のパ

キーワード：コミュニティ、ソーシャル・キャピタル、地域活動

連絡先：〒010-8502　秋田市手形学園町 1-1、TEL(018)889-2359、FAX(018)889-2975

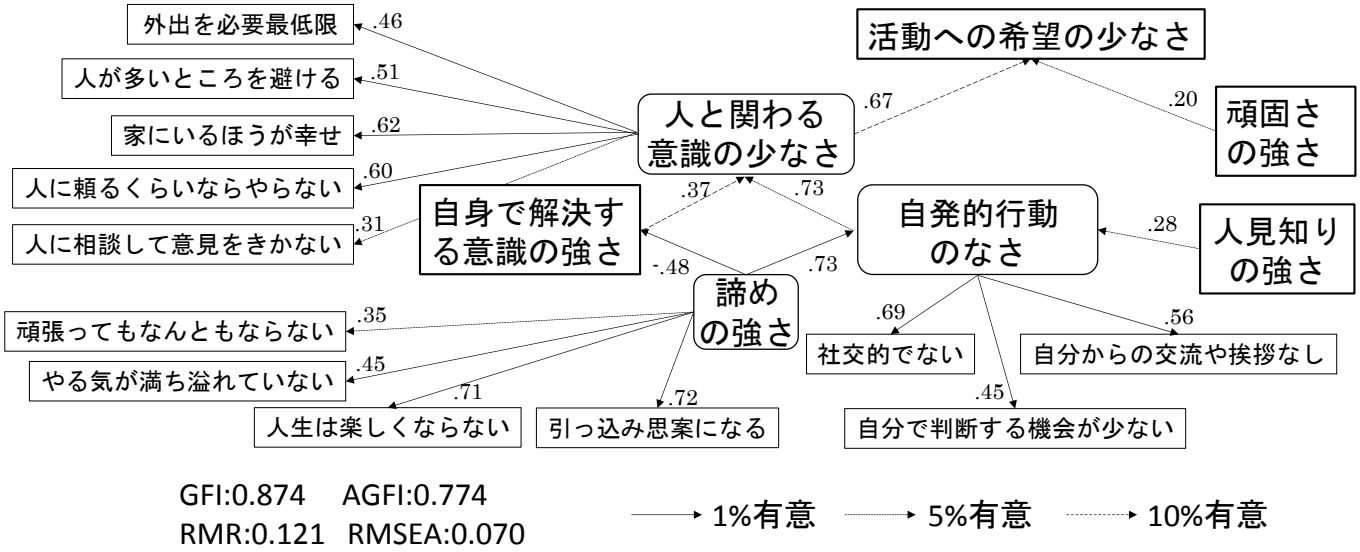

図-1　内面的性質に関する構造

表-3　内面的性質と活動に参加したいと思うために必要になること

	関わる意識の少なさ		諦めの強さ		自発的行動のなさ		頑固さの強さ		解決する意識の強さ		人見知りの強さ	
	該当	非該当	該当	非該当	該当	非該当	該当	非該当	該当	非該当	該当	非該当
訪問による取り組みの説明	8.7%	14.7%	22.9%	5.8%	11.1%	9.8%	14.3%	8.3%	10.0%	10.3%	11.9%	9.4%
参加に誘ってくれる	36.5%	35.3%	40.0%	35.0%	41.7%	34.3%	31.0%	38.5%	37.5%	34.5%	33.3%	37.5%
送迎をお願いできる	14.4%	11.8%	14.3%	13.6%	16.7%	12.7%	21.4%	10.4%	17.5%	8.6%	11.9%	14.6%
取り組む人が増える	19.2%	23.5%	28.6%	17.5%	22.2%	19.6%	21.4%	19.8%	26.3%	12.1%	16.7%	21.9%
セミナーやイベントによる活動の説明	16.3%	2.9%	5.7%	15.5%	2.8%	16.7%	11.9%	13.5%	13.8%	12.1%	7.1%	15.6%
性格や健康状態を受け入れてくれる	26.9%	38.2%	37.1%	27.2%	36.1%	27.5%	35.7%	27.1%	27.5%	32.8%	28.6%	30.2%
活動施設に歩いて通える	47.1%	41.2%	40.0%	47.6%	36.1%	49.0%	35.7%	50.0%	46.3%	44.8%	50.0%	43.8%
活動を見学させてもらう	19.2%	11.8%	17.1%	17.5%	19.4%	16.7%	14.3%	18.8%	18.8%	15.5%	19.0%	16.7%
活動施設の設備が充実してる	12.5%	8.8%	11.4%	11.7%	8.3%	12.7%	19.0%	8.3%	15.0%	6.9%	7.1%	13.5%
チラシなどで活動風景が分かる	16.3%	8.8%	14.3%	14.6%	13.9%	14.7%	9.5%	16.7%	15.0%	13.8%	21.4%	11.5%
取り組みの開催頻度が増える	11.5%	8.8%	14.3%	9.7%	8.3%	11.8%	9.5%	11.5%	12.5%	8.6%	9.5%	11.5%

表-4　活動への参加希望と該当率

	活動への希望	該当率(%)
(1)	元気に過ごせる日を増やすための活動	55.6
(2)	外出するのが楽しみになる活動	56.1
(3)	人と話す機会を増やすための活動	53.5
(4)	新たな友人をつくるための活動	37.4
(5)	児童や若者と交流する機会を得るための活動	34.0
(6)	自分の経験を誰かのために活かすための活動	26.9
(7)	人とのつながりを深めるための活動	42.5
(8)	生活リズムをつくるための活動	42.9
(9)	積極的に地域に関わっていくための活動	24.5
(10)	毎日を笑顔で過ごすための活動	53.8

スを探索的に繋ぎ、すべてのパスが有意かつ、GFI および AGFI の値がある程度高くなるよう繰り返し分析を行った。**図-1** にそれらの結果を示す。「人と関わる意識」「自発的な行動のなさ」「諦め」を潜在変数として、高齢者の各内面的性質が「活動への希望の少なさ」に影響する構造モデルが作成された。「諦め」が「解決する意識」および「自発的行動のなさ」に繋がり、そこから「人と関わる意識」へ繋がる。さらに、「人と関わる意識」や「頑固」が「活動への希望の少なさ」に繋がっている。

次に、活動に参加したいと思うために必要となることと高齢者の内面的性質との関係を把握する。**表-3** にそれらの関係を示す。活動に参加したいと思うために必要となることは全国各地の事例で挙げられていた不参加理由や要望から抽出・選定し、11 項目を設定した。各内面的性質について「該当」は 4 段階評価で 3.0 以上の被験者を示す。例えば「諦め」が該当する被験者で「訪問による取り組みの説明」が必要だと回答したのが 22.9%であるのに対し、「諦め」が低い被験者では 5.8%となっている。このように、各内面的性質について該当する被験者と該当しない被験者とで、必要となる施策が異なる項目がみられる。

4. おわりに

本研究では、高齢者における内面的性質の因子や各種活動参加意欲などの把握をし、内面的性質は、「人と関わる意識の少なさ」「諦めの強さ」などの 6 つの因子で構成されていることを明らかにした。また、内面的性質が活動参加意欲の低下に影響していることを示した。すなわち、高齢者の内面的性質を考慮することが高齢者の福祉施策に求められる。高齢者施策を検討する際、人と関わる意識の少ない性質や自分から行動できない性質などを考慮した施策を検討することで、より効果的な取り組みを実行することが可能となる。今後は、内面的性質を構成している要因について、詳細に分析していくことも望まれる。